

組織目標評価報告書（令和4年度）

部局名： 岡山大学病院

部局長名： 前田 嘉信

目 標	目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
①教育領域	教育領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等
<p>日本屈指の教育研究拠点となることを目指して、大学病院職員を主とする多様な医療人への、デジタル等を活用した教育・研修プログラムによる個別最適な教育・研修を充実させるとともに、社会人向け教育・研修プログラムを開発し、地域や国際社会で中核となって活躍する優れた高度医療人を育成する。</p> <p>また、デジタル技術等を活用した広報活動を行い、初期研修医及び専門医を含む次世代医療人の獲得に努める。</p>	<p>岡山大学病院内に「高度医療人育成センター」を設置し、岡山大学病院内外に勤務する医療系職員を対象として、高度医療人の育成・輩出を行う体制を整えた。</p> <p>また、多様な医療人を対象とするデジタルを活用した教育プログラムを次のとおり実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種 職員全体研修を、今年度から原則オンデマンド化により実施(年間24回開催、総参加者数4,141名) ・CMA-Okayama医療人材育成プログラムの実施(6回、総参加者数198名)、セミナー動画のオンデマンド配信。 ・公開講座 おかやま病院経営「トラの穴」講座を対面・オンラインのハイブリッドで開講(年間14回開催、総参加者数17名)。講義動画のオンデマンド配信。 ・岡山大学病院NSTオンライン勉強会の開催(年間9回開催、総参加者数279名)。 ・がんゲノム医療中核拠点病院岡山大学病院人材育成セミナーの開催(年間10回開催 総参加者数241名)。 <p>また、特定行為看護師のフォローアップ研修に、VRを利用したハンズオンセミナーを組み入れた。(12/5開催 フォローアップ研修参加者6名)</p> <p>卒後臨床研修センター医科部門では、協力型病院検索システムを立ち上げ、医科研修医が研修協力病院などの情報を素早く入手できるようにし、研修協力病院も医科研修医に伝えたい情報をリアルタイムでアップデートできるようにした。歯科部門では、ホームページを一新し、携帯端末からの表示およびアクセスを容易にした。(2023年度研修医定員充足率 医科90.9%、歯科100%(2023/2/10現在))</p> <p>医療教育センターと共催の「専門医研修ナビ@WEB」に各診療科の動画を掲載するなど専門医研修の情報提供を行い、専門医の獲得に努めた。</p>
②研究領域	研究領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等
<p>遺伝子治療、再生医療などの新たな医療の実用化を目指し、国際競争力を有する新たな医療を推進する。</p> <p>ARO支援をさらに充実させるとともに、特定臨床研究の件数と質の維持に努める。さらに臨床研究中核病院として、国際水準の質の高い研究を実施できることを目標とした医師主導治験の支援も行う。</p> <p>橋渡し研究における拠点として、各アカデミアのシーズの掘り起こしと育成をさらに強固に実施し、新規治療法と医薬品、医療機器・器具等の開発を支援する。</p> <p>治験・臨床研究の機能強化を図るとともに、CMA-Okayamaを中心とする医療連携ネットワーク参加施設の拡大を目指す。</p>	<p>探索的医薬品開発室は、血液腫瘍内科による白血病に対するCAR-T細胞療法による治療など国際的に展開される最先端の治療法に対応し得る施設として施設管理や施設使用者へのトレーニングを行うなどの支援を行った。また、細胞調製・製剤調製のみでなく、医療材調製など幅広い分野の臨床研究が見込まれるシーズに対しても臨床研究に係る文書作成・消耗品作製の支援を実施しており、次世代医療・異分野融合イノベーションの創出につながる臨床研究を推進している。</p> <p>臨床研究の適正な実施のために、特定臨床研究管理委員会をもって、新医療研究開発センター監査部臨床試験監理室にて、臨床研究の年次点検及びフォローアップ点検を行い、品質確保と不適合の是正に努めた。研究者等のニーズに沿うと伴にシーズの社会実装に向け、ARO支援をさらに充実させるなどし、臨床研究数の拡充に努めた。さらに「特定臨床研究奨励費制度」を整備し、岡山大学病院主幹の臨床研究の確保と、適正な実施に努めた。</p> <p>橋渡し研究において、運営マネジメント会議を開始し、学長を含め全学的な体制を整備し、IMaCとの連携をとり、異分野融合チャレンジ事業を開始した。21件の応募があり7件を採択し、医療関係開発を支援した。中四国地方アカデミアの連携強化、シーズ掘り・育成のため、中国・四国TRを開催し情報交換を行い、また、各アカデミア研究者との個別相談を実施した。</p> <p>CMA-Okayamaネットワークは順調に治験受託数を増やすとともに新たに姫路赤十字病院を加えるため、SMO(治験施設支援機関)など治験に係る状況等を確認し、スムーズな治験ネットワークの運用に繋げ、治験・臨床研究の機能強化を図れるよう調整を行った。</p>
③社会貢献(診療を含む)領域	社会貢献(診療を含む)領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等
<p>先進的かつ高難度なロボット支援手術を推進し、それを担う高いレベルの次世代の術者を育成し、安心安全で高度な医療を提供する。</p> <p>地域がん診療の中核医療機関としてがんの高度先進医療、ゲノム医療、臨床試験の推進、がん診療・がん緩和医療に従事する医療人の育成を進める。また、岡山県がん診療連携拠点病院として地域のがん診療の質の向上に努める。</p> <p>がんゲノム医療中核拠点病院、遺伝性乳癌卵巣癌総合診療基幹施設、および厚労省の定める遺伝性乳癌卵巣癌(HBOC)診療の保険診療施設等として、連携施設とのゲノム医療・遺伝医療の連携や人材育成支援を継続する。今後難病領域においても拠点病院化が計画されているため、遺伝診療体制のさらなる強靱化をはかる。</p> <p>「聞こえのバリアフリー事業」の一環として、岡山大学病院に「聴覚センター」を新設する。</p>	<p>従来のロボット支援下膵切除術に加え、令和4年4月から保険診療適用となった「ロボット支援下肝切除術」を9例、「ロボット支援下総胆管拡張症手術」を令和4年7月から、2例施行した。これら全てのロボット支援下肝胆膵外科手術を行っているのは、中国四国地方では岡山大学病院のみである。Web研修等により次世代の術者育成を行いつつ安心安全で高度な医療を推進している。</p> <p>県内のがん診療の質の向上と医療連携の構築を目指し、岡山県がん診療連携協議会等の継続的な開催や「岡山県のがん診療におけるより良い病病・病診連携に向けて」をテーマとした研修会の開催等により、地域医療機関とのがん診療連携を推進した。また、がん看護・がん緩和医療・がん薬物療法・がん相談支援等における県内医療従事者向け研修会を多数開催し、地域のがん診療従事者の育成に努めた。</p> <p>がんゲノム医療中核拠点病院として、3種類のがん遺伝子パネル検査を運用しており、コロナ禍においても出検数は昨年度以上の水準で推移している。また、連携病院等からの依頼によるがん遺伝子パネル検査のエキスパートパネルの実施件数も今年度(2/22時点で)1014件と昨年度実績(797件)を大きく上回っている。さらに、令和2年12月より開始したがん遺伝子パネル検査【TSO500】の臨床応用を目指した先進医療B「マルチプレックス遺伝子パネル検査」は、中四国の拠点病院も含めて23施設が参加し、令和4年11月に250症例の登録を完了した。これら、がんゲノム医療の実現に必要な地域の人材育成のためオンデマンド及びオンラインでの人材育成セミナーを昨年度に引き続き開催し、セミナーに関連して作成した動画資料の昨年度からの総再生回数は累計8400回を超え、人材育成資料として広く活用されている。</p> <p>これらの実績が評価され、令和5年2月13日に開催された「第4回がんゲノム医療中核拠点病院等の指定に関する検討会」にて、当院は令和5年度から令和8年度までの4年間、引き続きがんゲノム医療中核拠点病院として指定されることが決定した。</p> <p>「聞こえのバリアフリー事業」の一環として、岡山大学病院に「聴覚支援センター」を新設した。病院内の他組織、岡山大学内の部局、その他岡山大学内外の組織と連携し、聞こえのバリアフリー事業を推進することで、全ての国民が、障害の有無によって分け隔てられることなく、相互に人格と個性を尊重し合いながら共生する社会の実現に資するよう活動している。</p>
④管理運営領域	管理運営領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等
<p>経営戦略会議・執行部会議において、経営指標等について分析を行い、MBO(目標管理)を実施して各科の病院収益等の経営状況の確認・フィードバックを行い増収に努める。また、昨年度から設置した病院経営の専門家である病院長補佐等の外部有識者の意見も引き続き取り入れながら病院経営の安定化を図る。</p> <p>医療材料や医薬品等の経費について分析・検討し、適正価格での購入を図る等コスト削減に努める。</p>	<p>経営戦略会議・執行部会議において、病床稼働率、外来患者数、診療費用請求額、診療経費、手術件数等の経営指標について検証・分析をするとともに、MBO(目標管理)の達成状況について、各科の病院収益等の経営状況を確認・フィードバックを行うことで病院経営の安定化に努めた。また、学外から招へいた病院長補佐を経営戦略会議のメンバーに加えて、診療の効率化を目的としたDPC II期以内退院率の向上の取り組みを行った結果、4～1月は前年度66.3%から今年度は68.0%へ上昇した。さらに、救急医療管理加算の向上にも取り組み、4～1月累計で対前年度1,303万円の増収となった。</p> <p>医療材料・医薬品について値引き交渉等を行った結果、医療材料の購入額(税抜き)で460万円の削減効果、医薬品の上半期(4～9月)対薬価額(税抜き)で5億1,521万円、値引率(税抜き)12.20%の削減、下半期(10～1月)対薬価額(税抜き)で3億5,059万円、値引率(税抜き)12.06%の削減効果を得た。</p>

注1) 本様式全体が1ページに収まるよう作成してください。

注2) 自己評価による達成度(5～1)は非公表項目とし、組織目標評価結果を公表する際に消去します。